

藤田建設工業株式会社の取組の概要

1. 地域林業の概要

藤田建設工業株式会社の主たる活動範囲は、福島県の南東部に位置する、東白川郡の棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村の4町村で構成される「奥久慈流域林業地域」であります。私有林の人工林率は57%と全国的に見ても高い割合となっています。針葉樹人工林の80%がスギで、アカマツが11%、ヒノキが9%と、比較的恵まれた土地条件のもとで豊かな森林資源が造成されています。



2. 取組1「高密度路網型高性能林業機械による間伐施業効率向上実証事業」(平成21年度)

①取組の内容

従来の作業システムと新たな作業システムを比較しました。

新たな作業システムの変更点は以下のとおりとなっています。

- 幅員2.5mの作業路を新規に1,619m開設し、路網密度269m/haまで高密度化。
- 作業路は四万十式作業路を採用。
- 造材工程をチェーンソーからプロセッサに変更。
- 搬出工程を林内作業車からフォワーダに変更。

②取組の結果

路網開設については、労働生産性が76%減、生産コストが286%増となりました。一時的な使用を想定した簡易な作業路から何度も使用することを想定した四万十式作業路に変更したため開設コストが増加したと考えられます。

間伐施業については、労働生産性が1.8m³/人日から4.5m³/人日へと150%向上し、生産コストについても、13,990円/m³から7,720円/m³へと45%減となり大幅なコストダウンを達成しました。



3. 取組2「高密度路網型高性能林業機械作業システムによる列状間伐の有効性」(平成22年度)

①取組の内容

平成21年度の事業で導入したシステムの更なる検証を行いました。

②取組の結果

路網開設については、労働生産性が61%減、生産コストは123%増となりました。昨年度同様開設コストは簡易な作業路に比べ増加していますが、昨年度と比較すれば、労働生産性が40%増、生産コストが43%減と改善が見られました。

間伐施業については、労働生産性が1.8m³/人日から5.5m³/人日へと206%向上し、生産コストについても、13,990円/m³か6,190円/m³へと56%減となり、昨年度と比較しても労働生産性が19%増、生産コストが20%減とこちらも改善が見られました。



→詳細版はこちら 1(PDF:1,975KB)、2(PDF:1693KB)